

# 北海道医歌人会詠草



## 秋空

旭川 稲積 文子

重きもの持つ力なく腰抜けて 島に転べば秋空高し  
逃避する心にも似て歌作る どんよりとした煮え切らぬ午后  
みみずなど島の宝と聞きたれば 見過すことに耐えねばならず  
勝つのみで存在感を示す人 淋しさを知らぬか誇らしき顔  
臨月を満月と間違う友居りて 眠気もふっ飛んだテストの前夜

## 冬木立

江別 三宅 浩次

枯葉にも音楽がある風の音靴を踏む音樹々騒ぐ音  
老木は老木のまま枯れ枝に惜しむがごとく数葉残す  
枝先に来る春告げるふくらみを隠したままに立ちつくす樹々  
新緑は春濃緑に夏過ぎて華やかな秋寂しきは冬  
冬木立寒空に向け突き刺さる枝のまた枝その先の枝

## 冬到来

札幌 古屋 統

ささやかな家持ちらし日々除雪ありアパート住み今除雪なし  
雪降れば大通公園ベンチ群坐りて休む場所無くなりて  
雪降らぬ日々を階段昇降に時を過ごす唯一の運動  
南側に十五階マンション建つ噂日照不安のこちらの住居者  
才あるは短命なりとの格言ありきみ若くしてわれに先立つ(悼 大平整爾氏)

## ムラサキツメクサ

札幌 浜島 泉

バス窓ゆ眼を凝らし空き地見る ムラサキツメクサ絨毯敷きに  
花殻がみすぼらしげに散り惑ふ 摘み取るべきかヤブカンゾウの  
密やかに秋の雨降る 昨日の風にて落ちしかエデの小枝  
色赤くなるも道理カツラの葉 寒きに色素生じつといふ  
歌を詠み 両肘かけに鉛筆を持つ腕載せて書きとめんとす

## 日暮れて

釧路 兎玉 昌彦

頭だけしつかりした人 からただけ丈夫な人と老いはさまさま  
一日も早く死にたしとアンプタを拒否せるひとに説く言葉なく  
在宅を望まぬ妻とリハビリに意欲なくした不随の夫  
どんな過去二人にありしか見舞う夫ののしり帰す老女ありけり  
ろうそくの燃え尽きるごとと安らかに死ぬすべなきや そを究むべし

## 育ち合い

函館 水関 清

小さき手でちぎりしレタス重なりて なほ透くみどり 君との食卓  
「亀さんは 兎の昼寝 知ってたの？」 吾子の質せし 物語の謎  
布団また蹴りて 大の字お臍出し 育ちの力溢れる眠り  
遠きより 揺れが揺れ呼び重なりて大波となり 揺れる秋桜  
投げるたび こころの芯が熱をもつ 三十年ぶり君とのキャッチ